

夕刊

常新報

定価 一月三圓 三月九圓 半年一五圓 一年二八圓
廣告料 第一版一圓 第二版八角 第三版七角 第四版六角
電話 五五五番
發行所 常新報社

小名濱公園を四季の遊戯場化せ

小名濱公園は漸く公園らしくなり櫻花の期節には相當の人も見、一時は公園として人足も相當あり賑を呈するが其以外は殆ど足跡を止めず一般の記憶より遠りつゝある

事業地として価値 小名濱の将来に就きて

町は勿論中道及び西に町當局町民擧げて挽回策に心を砕くこと、此頃より常港漁港等の間に村の各部並に濱道と双葉相馬に至り海に通じては茨城縣の各港千葉、東京、静岡等北は三陸、北海道と小規模ながら行はれたる貨物の輸出入が益々小名濱に不利なる間に沿線各線、就中平

常磐春秋

柏原幸次郎氏經營に於て所有にかゝるもの、早曰く、平消防組頭、所得は三井榮一氏のため、適當は三井榮一氏の提供したる骨其稀に見る感謝感念の發露

本郡は勿論中道及び西に町當局町民擧げて挽回策に心を砕くこと、此頃より常港漁港等の間に村の各部並に濱道と双葉相馬に至り海に通じては茨城縣の各港千葉、東京、静岡等北は三陸、北海道と小規模ながら行はれたる貨物の輸出入が益々小名濱に不利なる間に沿線各線、就中平

潮流の訪つる處となり、大伴を具備せる計りでなく天正の末期に及ぶ間頻年物興恵に比較に富みたる本郡地せる各種事業決して其數少方の天然資源に加わる電氣

の如く全き交際を繼續して其格の延びる處、店の繁榮も公私相待ちて人に立脚する立場が現出するのである

社 會

の印象

を見、現組合長、漁業組合の理事としてヒナ一だ、町各方面より見て江名町としての大御所、まあ江名町の西園寺公と云ふ處。

金物は

久商店

平町五丁目
電話 九百九番

潮流の訪つる處となり、大伴を具備せる計りでなく天正の末期に及ぶ間頻年物興恵に比較に富みたる本郡地せる各種事業決して其數少方の天然資源に加わる電氣

閑日漫言

港灣視察の土産話の一節
一行中の老年或旅館で就寝
前旅行疲れに格好を崩し睡
魔との奮闘中、特大の口角

小名濱大敷 網の豊魚

昔より採める濱に漁がな
いと云ふたが五年越の小名
濱大敷漁場も漸く圓滿に解

★ 数年来の懸案に目度
手打となり愈々大敷も始ま
つた何んと云つても櫻鯛又

募 集

石版徒弟二名
十二才より十七才迄
本人來談
高野石版所
小名濱町下横町

三井呉服店
流行の魁
平町三丁目
電話三十八番

佐藤齒科醫院
齒科一般口腔外科
小名濱町

錦港社印刷所
美術印刷
小名濱中島通

佐瀬醫院
小兒科・花柳病科
小名濱中島
電話一三五番

長瀬印刷所
美術活版石版印刷
小名濱町西町

小名濱水産
株式會社
船舶用油類
船具類

上田科外醫院
外科専門
レントゲン科
平町南町
電話一二九番

佐々木齒科醫院
齒科一般口腔外科
泉驛前

寶屋商店
藥品 高名貴藥
化粧品小間物類
小名濱町米野
電話三十九番

池部醫院
齒科一般
江名町

柴田書店
書籍 文具
運動具は マルトモ
平町四丁目
電話三四番

鈴木寫眞館
美術寫眞
晝夜撮影
小名濱町中島通

高久病院
内科 外科
花柳病科 レントゲン科
平町田町
電話五一三番

久保田醫院
内科 産科
婦人科 花柳病科
泉驛前に
出張所あり
小名濱町
電話二二番

木田齒科醫院
齒科一般口腔外科
小名濱町
電話一〇五番

平川醫院
内科 外科 小兒科
花柳病科
江名町

明雲堂眼科醫院
眼科一般診療
東北醫學士 日ノ澤孝三
泉驛前

磐城水産工業株式會社
社長 小野晋平
支配人 福尾伊太郎
電話六六番

銘清水屋本店
酒
小名濱町
電話六番

中村醫院
内科 外科 花柳病科
小兒科
病室の設備あり
小名濱町
電話一八番

洋品ハ正札店
値は安く
品は良く
丈夫な
タマキ洋品店へ
小名濱磐城座入口

祝 甦 生

佐藤徳太郎
漁業組合長
江名町

馬目常吉
豊間漁業組合長
錦村消防組頭

片岡醫院
内科、外科、小兒科
植田町
電話一〇七番

齋藤昌孝
泉信用組合長
泉村

國安稔之助
植田電燈株式會社
小林讓三郎

宮津醫院
内外科、耳鼻咽喉科
小名濱町西町
電話一〇七番

上遠野新十郎
泉村長

狩野隆察
小名濱町